

保育そのとき

倉橋 生

一、或日、私は、幼稚園の保母室のグリーンボードへ斯ういふ字を書きつけました。

秋晴るゝ日よ

子どもらの聲高し

外へ、外へ、外へ

一、まづ一番手近、否、足近の外が幼稚園の庭。あんなに

朝の日の一ばいあたつてゐる庭。それにそむいて室内保育は惜しいものです。寧ろ、勿體ない位です。殊に都會幼児である場合、存分日光に親めるだけでも幼稚園へ通つて來る意義があるといつていゝ程なのに。

一、園外保育とは、多分私がいひ初めた言葉だと覺へてゐるが、その時分、私は随分氣が小さかつたものです。今なら、ぐつと大きいところを見せて、内も外もない、どこでも彼しこでも、みんな幼稚園だ位に言つて見たい。あなたの町も村も、野も丘も海邊も、一とくるみに、われ等の幼稚園と見なませう。

一、柿、栗、等々、お話の中だけでよく知つてゐて、ほんものゝ木を見たことのない子ども、見せてやりたいですね。